

夢のかけ橋

高知県教育だより ～ 第24号 ～

平成24年

9

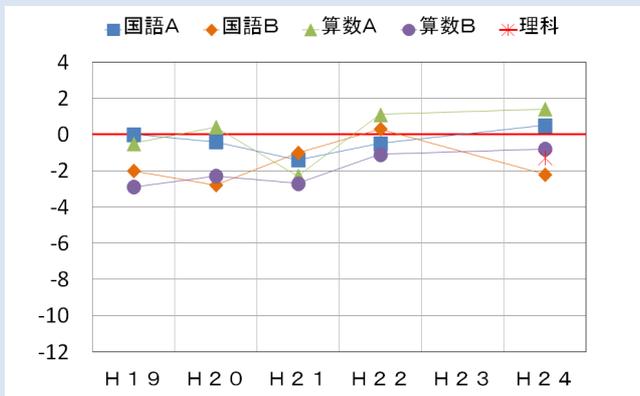
20129

平成24年度全国学力・学習状況調査結果の概要と今後の学力向上に向けた取組

本年4月に行われた全国学力・学習状況調査の結果が8月に公表されました。今回の調査は2年振りの全国調査であり、前回と同様に抽出調査として実施され、新たに理科が加わりました。県全体の概要と今後の学力向上に向けた取組についてまとめています。

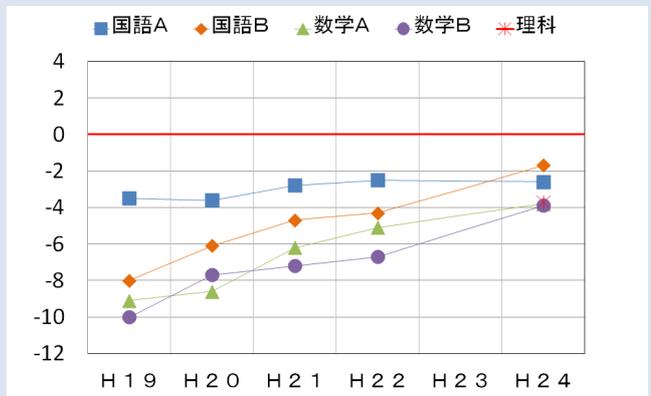
県内小・中学生の学力の状況

【小学校】



小学生は、平成22年度に引き続き、全国レベルを維持しています。基礎学力を見るA問題では、国語・算数とも全国平均を上回っていますが、活用する力を問うB問題や理科の問題では、全国平均をやや下回っています。

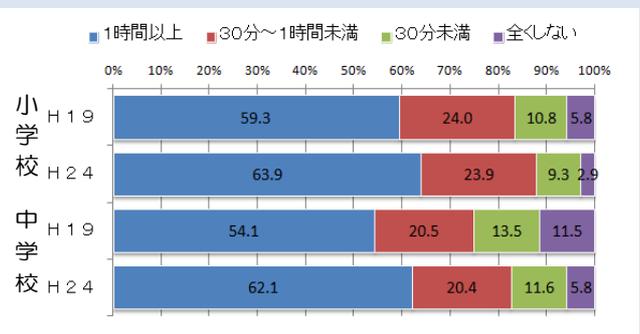
【中学校】



中学生も全国平均には達していないものの、国語・数学ともかなりの改善が見られました。

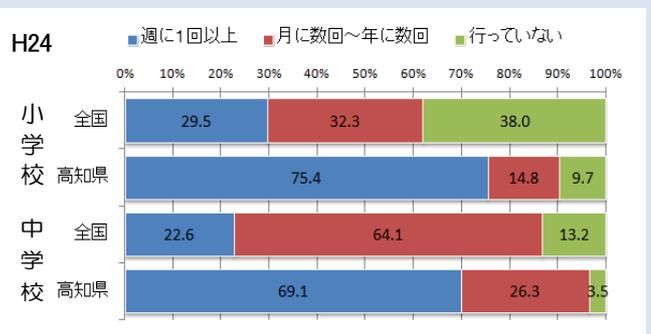
特に数学については、平成19年度の調査では10ポイント近くあった全国平均との差が、今回の調査では3ポイント台に縮まるなど、着実に改善されてきています。

県内小・中学生の学習の状況（質問紙調査から）



子どもたちの家庭学習の状況（1日あたりの学習時間）

今回の結果では、5年前の調査に比べて、小・中学生ともに、1時間以上の家庭学習をする割合が増え、全くしない割合が減っています。特に、全くしない子どもの割合は全国平均を下回るなど、家庭学習の習慣が着実に身に付いてきています。



学校の取り組みの状況（放課後を利用した補充学習）

高知県では、小学校の75.4%、中学校の69.1%が、放課後を利用した補充学習を週に1回以上実施しています。また、学力調査の結果を教育指導の改善に生かしている学校や、小・中学校で連携して指導に取り組んでいる学校の割合が全国平均を大きく上回っています。

今後の取り組み

今年度から「高知県教育振興基本計画重点プラン」を策定し、現状の課題を改善するとともに、「知」「徳」「体」のそれぞれの分野でさらなるステップアップを図ることとしています。特に、「知」（学力向上）の分野では、平成27年度までの4年間で「小学校は全国上位に」「中学校は全国平均に」引き上げることを目標に全力で取り組んでいます。

- 1 全小・中学生に実施する単元テストによって、学力の定着状況をこまめに把握しながら、結果に応じた個別指導を徹底します。
- 2 各学校に配付している国語、算数・数学、理科、英語の学習シートをより有効に活用して、授業や放課後学習、家庭学習を充実させます。
- 3 学校図書館活動や新聞を授業で活用することなどを通して、子どもたちの思考力や表現力を高めます。
- 4 子どもたちの目的意識や学ぶ意欲を育むキャリア教育を推進します。

その成果を見る指標として、高知県学力定着状況調査等を活用した学力向上のためのPDCAサイクルを確立し、さらに子どもたちの自信につながる学力をつけていきたいと考えています。

小中学校課 学校教育第二担当 088-821-4908

「平成23年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」の結果を受けて

「平成23年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」の結果が9月11日に公表されました。本県の状況等は、以下のとおりとなっています。

本県と全国の国公立学校の状況

項目	対象		平成21年度	平成22年度	平成23年度
1,000人当たりの暴力行為発生件数	小・中・高等学校	高知	7.7件 (7)	8.0件 (6)	8.6件 (2)
		全国	4.3件	4.3件	4.0件
1,000人当たりのいじめ認知件数	小・中・高等学校・特別支援学校	高知	2.5件 (33)	4.8件 (21)	3.7件 (23)
		全国	5.1件	5.5件	5.0件
1,000人当たりの不登校児童生徒数	小・中学校	高知	12.7人 (8)	13.2人 (4)	13.7人 (3)
		全国	11.5人	11.3人	11.2人
1,000人当たりの不登校生徒数	高等学校	高知	16.7人 (17)	17.4人 (18)	20.8人 (10)
		全国	15.5人	16.6人	16.8人
生徒数に対する中途退学率	高等学校	高知	1.8% (11)	1.7% (13)	2.1% (2)
		全国	1.7%	1.6%	1.6%

※データは国公立合計、○は全国ワースト順位

本県の公立学校の特徴、傾向等

小・中・高等学校における暴力行為

- 形態別では、対教師暴力が114件（小：3件、中：108件、高：3件）、生徒間暴力が273件（小：21件、中：214件、高：38件）、対人暴力14件（小：1件、中：12件、高：1件）、器物損壊が204件（小：9件、中：167件、高：28件）となっている。

小・中・高等学校・特別支援学校におけるいじめ

- いじめ発見のきっかけで最も多いのは、小学校は「当該児童の保護者からの訴え」（34.4%）、中学校、高等学校は「本人からの訴え」（中：31.2%、高：52.9%）となっている。
- いじめの日常的な実態把握のために、学校が直接児童生徒に対して行った取組として、小・中・高のいずれも「アンケート調査の実施」が最も多い（小：82.1%、中：89.0%、高：100%）。次いで多いのは、小学校は「『個人ノート』や『生活ノート』といったような教職員と児童の間で日常的に行われている日記等」（60.1%）、中学校、高等学校では「個人面談の実施」（中：81.9%、高：57.1%）となっている。

小・中学校における不登校

- ・学年が進むにつれて多くなる。また、例年の中学1年生での急増に加え、中学2年生でも大幅に増加している。

小1から中3までの 学年別の不登校者数（人）	小1	2	3	4	5	6	中1	2	3
	3	13	18	18	32	45	148	213	236

- ・不登校となったきっかけと考えられる状況は、小・中学校ともに、「不安などの情緒的混乱」（小：45.7%、中：35.0%）が最も多く、次に多いのは、小学校が「親子関係をめぐる問題」（29.5%）、中学校が「けんか等、いじめを除く友人関係をめぐる問題」（27.8%）となっている。

高等学校における不登校

- ・不登校となったきっかけと考えられる状況は、全日制では「無気力」（21.3%）が最も多く、次いで多いのは「不安などの情緒的混乱」（16.4%）となっている。定時制では「あそび・非行」（30.5%）が最も多くなっている。

高等学校における中途退学

- ・中途退学の理由としては、「もともと高校生活に熱意がない」（15.1%）、「別の高校への進学を希望」（13.8%）などが多くなっている。

教職員の皆さまへ

平成23年度の本県の生徒指導上の諸問題は、多くの項目で前年度より増加し、依然として厳しい状況が続いています。不登校の小学生129人、中学生597人、・・・、いじめの認知件数は小学校90件、中学校157件、・・・。これらは、何らかの背景・要因により、悩みや不安等を抱えつらい思いをしている子どもたちが、これだけいるということを示す数値です。この数値以外にも、つらい思いをしている子どもたちがいます。さらに、その子どもたちと一緒につらい思いをしている保護者がいることを私たちは考える必要があります、そのことを常に意識し、日ごろの教育活動を通じて子どもたちが豊かで温かな心を育むことができるよう努めなければなりません。

さて、全国では、いじめや自殺に関する報道が連日のようにマスコミで流され、大きな社会問題となっています。いかなる理由があろうとも、いじめは断じて許されない行為です。

そこで、いじめ問題と向き合ううえで大切なことが三つありますので、改めて確認させていただきます。

1 いじめを生じさせない学校づくりを進める

教職員が、子どもを一人の人格として認めて接している。子どものよさや頑張りを認めて褒めている。また、「社会で許されないことは学校でも許されない」「人の体や心を傷つけることは断じて許さない」ことを子どもたちに伝え、日ごろから毅然とした指導を全教職員が実践する。こうした取組を意図的に進めることを通して、子どもたちが安心し、自信を持ち、互いに尊重するようになります。

2 いじめを早期に発見し解決するための取組を進める

学校がいじめ問題にどんなに積極的に取り組んでいても、いじめが発生することがあります。

各学校では、いじめに関する校内研修の実施やいじめアンケート、個人面談等を通じて、いじめの早期発見に努めていただいています。教職員の皆様が、個々の子どもの様子や人間関係の変容等に注意を払い、いじめやいじめの前兆を認知し、早期に対応することが重要です。さらに心がけていただきたいことは、日ごろから子どもとの信頼関係を構築することです。信頼関係がしっかり築かれていれば、いじめられている子どもやいじめを知っている子どもが訴えやすくなり、早期の支援が可能になります。また、「信頼する先生を裏切りたくない、悲しませたくない」という気持ちが生え、いじめをしない子どもを育成することにもつながります。

3 いじめの状況によっては、外部機関や外部人材を活用する

学校は、子どもの将来を考え、教育的配慮のもとに学校だけで解決しようとする場合がありますが、適切な対応ができなかったために、事態をさらに悪化させたり、解決までに多大な時間と労力を費やしたといったケースも少なくありません。いじめが、いつ、どの学校で起こってもおかしくない状況にある今、学校は、状況によっては、躊躇することなく外部機関等に協力を求めることが、今後さらに必要となります。

大切なことは、いじめた子どもに対して、いじめがいかにか不当なものか（場合によっては、人権侵害であり、犯罪である）を理解させることであり、いじめられた子どもが安心して学校に通える環境をつくることです。

教職員の皆様、子どもたちが今後さらに安心、自信を獲得し、互いに尊重できる学校・学級を目指して、取組を進めていただきますようよろしくお願いいたします。

教員免許状の更新申請手続きはお済みですか？

第3グループ（本年度末が修了確認期限）の現職教員（臨時教員含む）の申請期限は平成25年1月31日です。この期限までに申請がない場合は、所有する免許状は全て失効することになり、そのままでは教壇には立てません。手続き漏れとならないよう、申請手続きが可能な方は、提出書類等が揃い次第、速やかに高知県教育委員会事務局教職員・福利課へ申請手続きを行ってください。詳細は下記 HP をご覧ください。

教職員・福利課 HP <http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310601/kyoirmenkyokoshin.html>

教職員・福利課 人事企画担当 088-821-4903

◎行事予定（10月、11月の主なもの）<注>現時点での予定です。日程の都合により変更される場合があります。

平成24年10月

- 15日 高知県小中学校長会と県教委との教育懇談会（高知市 高知会館 14時30分～）
- 16日 定例教育委員会（高知市 県庁西庁舎教育委員室 13時00分～）
- 17日 第46回全日本聾教育研究大会（高知市 県民文化ホール 13時00分～）
第2回高知県教育の日「志・とさ学びの日」推進県民協議会（高知市、教育センター分館、14時00分～）
- 17日～23日 日本スポーツマスターズ2012高知大会、日韓スポーツ交流事業
（高知市ほか 春野総合運動公園ほか）
- 18日 「安全教育プログラム」第1回策定委員会（高知市 県庁西庁舎教育委員室 13時30分～）
市町村教育委員会委員長・教育長合同研修会（高知市、県立ふくし交流プラザ 13時30分～）
- 24日 第4回教員の資質・指導力の向上のための人材育成の在り方検討委員会
（高知市 教育センター分館 13時30分～）
- 26日 第50回中四国小学校体育研究大会（高知市 高知市立横浜小学校 14時00分～）
- 27日 明日の保育をつくりだすためのセミナー（黒潮町 ふるさと総合センター 13時00分～）
- 28日 第61回全国手をつなぐ育成会全国大会高知大会（高知市 県民文化ホール 9時00分～）

平成24年11月

- 1日 四国小・中学校道徳教育研究大会高知大会（高知市 高知会館 13時30分～）
- 3日 第2回科学の甲子園 高知県大会（いの町 青少年体育館 9時00分～）
高知工業高等学校創立100周年記念式典（高知市 高知工業高等学校 10時00分～）
- 4日 高知県教育の日「志・とさ学びの日」関連行事「高知のキャリア教育フォーラム」
（高知市 RKCホール 9時45分～）
- 11日 わくドキショートコメントコンテスト
算数・数学思考オリンピック表彰式（高知市 高新文化ホール 午後）
- 16日 平成24年度教職員等表彰 表彰式（高知市 教育センター分館 16時00分～）
- 22日 第43回中四国音楽教育研究大会（高知市 県民文化ホールほか 8時50分～）
高知県学校体育保健研究大会・50周年記念式典（高知市 高知市総合体育館 10時00分～）
- 27日 定例教育委員会（高知市 県庁西庁舎教育委員室 13時00分～）
- 29日 四国地区小・中学校教頭会研究大会（高知市 県民文化ホール 12時30分～）
- 30日 第5回教員の資質・指導力の向上のための人材育成の在り方検討委員会
（高知市 教育センター分館 13時30分～）

編集後記

「夢のかけ橋」第24号をお届けします。
 厳しい暑さも和らぎ、過ごしやすい季節になりましたが、昼夜の気温差が大き
 く体調を崩しやすい時期でもあります。お身体にはご留意ください。
 本広報紙への感想やご要望がございましたら、発行者までお寄せください。
 教育委員会ホームページ：<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310000/>

<発行者>

高知県教育委員会事務局
 教育政策課

 (TEL) 088-821-4731
 (FAX) 088-821-4558
 (E-mail) 310101@ken.pref.kochi.lg.jp